

「羽村→多摩湖・歴史ウォーク（前半）」

2023-09-25 記 栗屋貴夫

■実施日：2023-09-21(木)

■参加者：23名

■場所：玉川上水、羽村取水堰、羽村山口軽便鉄道廃線跡

■ガイド：羽村市観光協会ボランティアガイド

9月度月例会は玉川上水の源流を訪ねて「羽村→多摩湖・狭山湖 導水管ルート」を辿るウォークを企画しました。

実は同じ企画を2013年「軽便鉄道（羽村～山口線）廃線跡を歩く」というテーマで先輩達は実施しています。その後の入会会員は経験していませんので今回実施することになりました。但し今回は前半と後半に分けて実施することにし、後半の部は来年度実施することになりました。今年度（前半の部）は羽村市内の玉川上水関連の施設その他を巡り、導水管ルートを米軍横田基地まで辿る。今回は箱根ヶ崎迄とし来年度は箱根ヶ崎から多摩湖・狭山湖までを辿る予定です。



◆行程

スタート：羽村駅 11:00⇒禅林寺（中里介山の墓）⇒羽村市郷土博物館⇒赤門⇒羽村取水堰⇒玉川兄弟像⇒第一水門⇒第二水門⇒第3水門⇒羽村駅⇒まいまいず井戸⇒（昼食）～13:20⇒神明緑道（羽村―山口軽便鉄道廃線跡）14:10⇒バス⇒箱根ヶ崎駅（解散）14:30

◆禅林寺（中里介山墓）

禅林寺墓地に羽村が生んだ偉大な小説家中里介山（1885～1944）の墓がある。長編小説『大菩薩峠』が有名。（ガイドさんの話では当時世界一長い小説であったが今では世界第2位とのこと）実は現在羽村市郷土博物館に存在する赤門は中里介山記念館の正門として使用されていたものが寄贈されたものである。しかし元はと言えば所沢・糎谷村の江戸時代の眼科医名門鈴木家の門であった。それがなぜ中里介山の手に渡ったのか。奇しき因縁と言わねばなるまい。

◆羽村市郷土博物館、赤門

郷土博物館では時間の関係で 特に「玉川上水」に関する資料と「中里介山」に関する資料を中心に見学した。特に今回ここを訪問した大きな目的の一つは、2023 年 3 月 10 日に木村立彦氏の講座「江戸時代 所沢の医療に尽くした人々」で学んだ梶谷村の眼科医鈴木家の門（通称赤門）を是非見たかったことである。中里介山記念館閉館後 1977 年、中里家より町に寄贈され、1984 年郷土博物館の中庭に復元された。



中里介山墓



赤門



羽村市郷土博物館



玉川兄弟像

◆玉川上水・庄右衛門、清右衛門兄弟

玉川上水は江戸市中への給水を目的としてつくられ、羽村から四ツ谷大木戸までの約 43 k m の素掘り水路であった。1652 年、幕府は多摩川の水を江戸に引き入れる壮大な計画を立てて、庄右衛門、清右衛門兄弟を工事請負人に任命した。1653 年に工事に着工、わずか 8 ヶ月で開削し、翌年 6 月には虎ノ門まで地下に配水管を敷設し、江戸城をはじめ、四谷、麴町、赤坂、芝、京橋方面一帯に給水しました。工事に尽力した兄弟は褒章として玉川の名を賜りました。約 43 k m の区間を約 92m の高低差を利用して水を流すよう設計されており、当時の水利技術の高さがうかがわれます。

◆羽村取水堰

羽村取水堰は、多摩川の河口から上流約 54 k m に位置し、川を堰き止める投渡堰、固定堰、魚類が行き来する魚道、及び堰き止めた水を取り入れる第一水門から構成されています。羽村取水堰は玉川上水と同時に建設され、1653 年に完成しました。

【投渡堰】は非常に珍しい仕組みで、台風等洪水の時は、水を堰き止める堰自体を流してしまいます。そして洪水が収まり水位が下がると再構築します。要するに自然には逆らわず、無駄な抵抗はしない。杉丸太や木の枝、石ころで作るわけですから大きな出費ではない、江戸時代からの人間の知恵・技術が途切れることなく現在まで伝わっています。

(土木学会・土木遺産に認定されています)



羽村取水堰



第三水門

◆東京水道導水管

大正時代になり、東京の人口が増え再び水が必要となり、村山貯水池（多摩湖）、山口貯水池（狭山湖）をつくり、そこに羽村取水堰から水を引き入れ導水管を設置して給水するという大工事を大正末期と昭和初期にかけて実施した。その取水入口が第3水門であり、送水管の直径は1.8mもある。

◆神明緑道（羽村山口軽便鉄道廃線跡）

村山貯水池や山口貯水池建設の為の工事として必要な砂利を多摩川から運ぶため軽便鉄道を敷設した。現在そこが細い道（神明緑道・地下には導水管）として残され、住宅街と工場群に挟まれて忘れ去られたように残されています。現在は住民の散歩道として利用されているとのことですが 導水管は横田基地（の地下）を横切り多摩湖・狭山湖方面へ続いています。



玉川兄弟像前にて



神明緑道

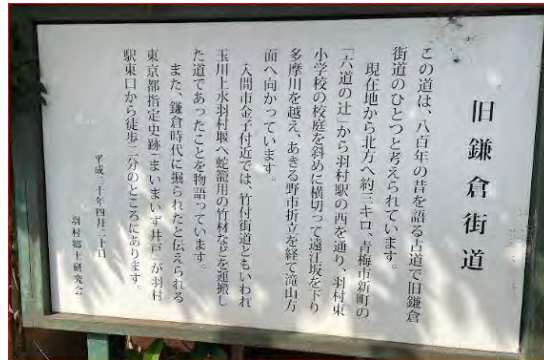
◆まいまいず井戸

まいまいず井戸は所沢市の堀兼井戸や入曽の七曲り井戸が有名ですが、それに比べて保存と維持がしっかりされており、完璧な形で残っていると感じました。かたつむり状の坂を底まで降りていくと井戸があり網カバー越しに底を覗くと水が溜まっています。

鎌倉時代の創建と伝えられています。ちょうど彼岸花が満開で私たちを歓迎してくれました。



まいまいず井戸



◆羽村市にも旧鎌倉街道が

羽村市から北方へ約3km、青梅市新町の「六道の辻」から羽村駅の西を通り、遠江坂を下り多摩川を越え、あきる野市折立を経て滝山方面（八王子）へ向かっている。上、中、下とは別に山の道があったらしい、鎌倉街道は縦横無尽に張り巡らされていたのである。

※当初26人参加の予定であったが3人欠席となり総勢23人、ガイド3人体制で対応していた。昨日迄の猛暑が今日は陽が差さず風もあり比較的しのぎやすかった。

猛暑であれば 昼食後、午後（神明緑道）は中止と考えていましたがお陰様で全コースを予定通り完歩出来ました。

参考資料

1. 羽村市郷土博物館資料
2. 東京都水道局資料
3. 各施設の説明版

【担当】Dグループ 青木祐子、喜多寛、安田好子、栗屋貴夫、

*今回は大人数で特に電車の乗り換えが3回もあり、粕谷眞、清水とも子、各氏の応援をいただきました。